



日本骨髄バンクの現状（平成 23 年 12 月末現在）

	11 月	12 月	現在数	累計数
ドナー登録者数	4,097	3,853	400,972	527,023
患者登録者数	254	228	2,915	34,642
移植例数	112	96	-	13,713

- 20 歳未満のドナー登録者数
12 月 305 人
合計 16,574 人（17 年 3 月～）
- 51 歳以上のドナー登録者数
12 月新規 156 人
延長 255 人
合計 25,565 人

■12 月の区分別ドナー登録者数：献血ルーム／1,418 人、献血併行型集団登録会／2,284 人、集団登録会／30 人、その他／121 人 注）数値は速報値のため訂正されることがあります。

■骨髄バンクを介して 2 回提供された方（累計数）739 人 ■DLI（ドナーリンパ球輸注）療法の実施件数（累計数）465 件

■国際協力の現状（2011 年 10 月～12 月）

<海外ドナー⇒国内患者> 移植数 1 件：KMDP 1 件 累計移植数：169 件

<国内ドナー⇒海外患者> 提供数 2 件：KMDP 2 件 累計提供数：209 件

1 平成 24 年の初めにあって

昨年は 3 月に東日本大震災が発生し、当財団にとっても困難な一年でした。改めて震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りしますとともに、被災地の一日も早い復旧を願っています。

震災の影響は多方面に及びましたが、移植への直接的な影響は最小限にとどめることができ、年間では 1,215 例の移植が実施されました。また、新規ドナー登録者数は 38,836 人で、12 月末現在の登録者数は 40 万人に到達しました。各関係者のご尽力とご協力に、厚く御礼申し上げます。

また、昨年 12 月 18 日に当財団は設立 20 周年を迎えました。今後も新たな課題に取り組んでいきますが、近々では 4 月に公益法人制度改革に対応して公益財団法人への移行を予定しており、現在、作業を進めています。また、6 月にはコーディネート支援システムの更新が完了する予定で、これにより末梢血幹細胞移植のコーディネーターが本格稼働となります。骨髄移植と併せ、患者さん、ドナーの方の選択肢が増え、より多くの方の救命につながることを期待されます。

近年、年間移植数は 1,200 例程度で推移していますが、今後もコーディネーター期間の短縮を目指し、ひとりでも多くの患者さんに移植の機会が提供できるよう、努力してまいります。皆さまのご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2 平成 23 年のドナー登録者数

平成 23 年（1～12 月）の新規ドナー登録者数は、昨年の 36,142 人比べて 2,694 人増の 38,836 人（前年比約 7%増）で、2 年連続しての増加傾向です。東日本大震災の影響もあり、4 月・5 月には登録者数が落ち込みましたが、6 月以降は前年を上回って推移し、特に 9 月 804 人、11 月 758 人、12 月 901 人と大幅な増加が見られました。県別にみると、昨年同様、緊急雇用対策で献血ルームへの職員派遣を行った埼玉県が大きく数字を伸ばしており、登録者拡大に具体的な取り組みを行った群馬県や富山県などでも、顕著な増加が見られます。窓口別では、献血並行登録会でのドナー登録者は 702 人の減少で、これは 4 月・5 月併せて 1,200 名以上の落ち込みがあった影響と考えられます。被災地以外でも、イベントの自粛や延期にともなう登録会の中止が多く見られました。一方、献血ルーム・血液センターにおける登録者は 3,687 人の増加が見られ、AC による広報が再開された効果が大きいと思われます。

なお、この度ドナー登録者が 40 万人に到達したことを受け、1 月 12 日（木）にプレスリリースを行いました。（<http://www.jmdp.or.jp/information/40.html>）ご登録いただいたドナーの方々、登録者増大のためにご協力いただいたすべての皆さまに御礼申し上げます。



3 平成 23 年の移植数およびコーディネート状況

平成 23 年の移植数は 1,215 件（国内ドナー⇒国内患者：1,203 件、海外ドナー⇒国内患者：4 件、国内ドナー⇒海外患者：8 件）でした。平成 22 年の件数（合計：1,213 件、国内ドナー⇒国内患者：1,200 件、海外ドナー⇒国内患者：5 件、国内ドナー⇒海外患者：8 件）とほぼ同数ですが、国内ドナーから国内患者への提供がやや増加しました。

また、平成 23 年の確認検査数は 5,648 件（前年 5,742 件、前年比 98%）、最終同意は 1,532 件（前年 1,464 件、同 105%）でした。コーディネート期間については、ドナーコーディネート開始から骨髄採取までの期間の中央値は 120 日で、前年の 121 日より 1 日短縮されました。

ドナーの方をはじめ、採取施設の担当医師、調整医師の先生方やコーディネーターの皆さまなど、多くの関係者の方々のご尽力とご協力に感謝を申し上げます。

4 骨髄バンク 20 周年記念全国大会のご報告

設立 20 周年記念日の前日となる 12 月 17 日に、東商ホール（東京都千代田区）にて「骨髄バンク 20 周年記念全国大会『ありがとう 20 年、つなげよう未来へ』」が開催されました。

第 1 部の記念式典では小宮山洋子厚生労働大臣らにご出席いただき、これまでご尽力いただいた多くの方々に感謝状が贈呈されました。第 2 部のイベントでは、慶應義塾大学教授 浅野史郎さんの講演や、移植・提供経験者によるトークショーなどが行われました。登録から提供に至るまでのドナーのお気持ちや、患者さんの感謝の思いなど、ご本人のことばで語られたお話は大変心に響くものでした。また、東日本大震災で被災された元患者さんからのメッセージや、不自由な生活の中で活動を継続されているボランティアさんの報告を聞くことができたのは、今回ならではの貴重な機会であったと思います。最後には会場一体となって、いきものがかりの「ありがとう」を合唱し、480 人の方々にご参加いただいた大会は閉幕しました。

次回の「骨髄バンク推進全国大会」は平成 24 年 9 月、宮城県仙台市での開催を計画しております。

5 群馬県がついに「ワースト」脱出！

人口 1000 人あたりのドナー登録者が全国最下位であった群馬県の、最下位脱出に向けての取り組みが、NHK テレビ「欽ちゃんのがんばる！日本大作戦」（「欽ちゃんのワースト脱出大作戦」より改題）で紹介されてきたことは、これまでに何度かお伝えしてきました。

その群馬県が、昨年 12 月の 79 人の登録者をもって「最下位脱出」となりました。現在の「登録対象年齢 1000 人当たりの登録者数」は 3.90 人。全国平均 6.67 人との間には大きな隔たりがありますが、この差を詰めて順位を上げていくことができるのか、今後も見守っていきたいと思います。

また、この番組に刺激され、他県でも登録推進が徐々に拡大されています。ちなみに上位は①沖縄県 25.83 人、②福島県 14.95 人、③京都府 12.21 人と、8 つの県が 10 人を超えています。代わって最下位になってしまったのは長野県。群馬県とはわずか 0.03 差の 3.87 人でした。

ご尽力いただいた群馬県の関係者の皆さまに御礼を申し上げます。



6 財団の会議開催予定

傍聴をご希望の方は、事前に財団事務局総務部までお申し込みください。

	公開・非公開	開催予定
常任理事会	公開・一部非公開	2月10日(金) 17:30～ 廣瀬第1ビル2階会議室

コーディネーター関係者のコーナー

以下は、医師およびコーディネーターの皆さまを対象としています。

7 第17回コーディネーターブラッシュアップ研修会報告

12月17日、18日に「第17回コーディネーターブラッシュアップ研修会」が開催され、コーディネーター125人、コーディネーションスタッフ14人、地区事務局中央事務局職員等41人が参加しました。1日目は「骨髄バンク20周年記念全国大会」に参加しました。骨髄バンク事業が多くの方々によって支えられていることを再認識し、患者さんやドナーの方の声に触れる好機となりました。

2日目は東日本大震災関連の事例報告やフォローアップ（事例報告、団体傷害保険）、PBSCT（講義、実施事例報告等）の研修を行いました。6月からのPBSCT本格稼働に備え、今後も各地区での研修や事務局職員対象のシステム関連の研修を実施していく予定です。

8 1位選定ドナーの採取日程調整とその変更について（お願い）

採取施設が移植施設の希望に添って採取日を調整した後に、移植施設から採取施設に対して移植日変更のご相談をせざるを得ないことがあります。移植施設内のスタッフ不足や、無菌室の空き状況、TBIのスケジュール等により対応できず、やむなく移植日の再調整が必要になるためです。しかしこの中には移植施設側で事前にご確認いただくことで防げるケースもあると思われまます。

いったん決定した採取日の変更は、貴重な採取日枠が失われたり、ドナーの方にご負担を強いてしまうこととなります。採取施設から「度重なる日程変更は理解しがたい。理由を文書で示してほしい」との意見をいただいたこともあります。そこで、医療委員会で慎重に審議した結果、下記が決定しましたので、ご理解ご協力のほどよろしくお願ひします。

<今後の対応方針>

1位ドナー選定後に、移植施設から移植日程変更の依頼が複数回あった場合、医療委員会に報告し、必要に応じその妥当性について審査します。

なお、2007年10月から移植・採取日程が決定した同一ドナーに対しての保留・延期が2度目となる場合は、移植施設からサマリーを提出していただき、医療委員会で妥当性が認められた場合のみ保留・延期を認めていますが、今後もこの運用は変更ありません。



9 ドナーリンパ球輸注療法（DLI）採血バッグへのラベル貼付について

（DLI 採血施設ならびに移植施設の先生方へ）

このたび、骨髄等と同様に DLI 採血バッグにもラベルを貼付すべきとのご意見があり、当面、骨髄バッグに貼付しているラベルを使用することとなりましたので、下記の対応をお願いします。

1. 運用方法

○地区事務局から DLI 採血施設に DLI 採血計画書等の書類を送る際に、骨髄バッグラベル（2 枚程度）の「骨髄液」の部分に「DLI」に修正のうえ、同封します。

○DLI 採血施設ならびに移植施設におかれましては、骨髄の場合と同様の対応をお願いします。

（DLI 採血施設は、書類に同封されているラベルの「採取施設記入欄」にドナーID、血液型を記入し、DLI 採血バッグに貼付します。

移植施設は、バッグ受領後「移植施設記入欄」に患者ID、血液型を記入します。）

2. 運用開始時期

○1 月 16 日（月）以降の DLI 採血計画書等の書類送付分から、ラベルを同封します。

○既に DLI 採血施設に対して書類を送付済みのものについては、ラベルの追加送付はしません。

10 骨髄液等の運搬に関するお願い（移植施設の方へ）

昨年 11 月より運搬業者による骨髄液等の運搬が開始され、現在までに数件、運搬業者による骨髄液等の運搬が実施されています。このたび、採取施設から、運搬業者を利用される際の移植施設の対応について、以下のご意見をいただきました。

○業者を利用する場合であっても、移植医師から採取医師への事前連絡および到着の連絡は必要ではないか。

○移植医師から、骨髄液等が到着したとの連絡があれば、通常、受け渡しの際にお伝えできることをその時に伝えることができる。

○無事到着したかどうか、心配。

移植施設におかれましては、骨髄液等の運搬を業者に委託する場合、必ず移植医師から採取医師に対して、業者が受け取りに行く旨の事前連絡および骨髄液等の到着連絡を行ってくださいますようお願いいたします。

11 トランスファーバッグから骨髄液が漏出した事例について（続報）

2011 年 10 月 20 日付けの安全情報「骨髄採取用バッグからトランスファーバッグ（容量 2000ml）へ骨髄液を濾過注入したところ、骨髄液が漏出した事例」に関して、販売メーカー（株式会社パルメディカル）より原因についての調査結果が報告されました。

製造元（フェンオール社）の調査によると、輸血バッグ製造時のシール工程で発生した溶着ミスの可能性が高いと判断されるが、現品を含め前後数ロットに同様の事例は確認されなかったとのことです。詳細については、別添 1 月 13 日付安全情報をご確認ください。

＜過去の安全情報＞

○「トランスファーバッグ（容量 2000ml）から骨髄液が漏出した事例について」（2011. 10. 20）

※財団 HP>医師の方へ>医師宛通知文【患者主治医向け】でもご確認いただけます。

12 「2012 年 台帳登録提出のお願い」と移植件数調査票の廃止について（移植施設の方へ）

1 月 10 日に日本造血細胞移植学会より発出された「2012 年 台帳登録提出のお願い」でご案内のとおり、本年度より移植件数調査票は台帳登録と一体化となりました。別途提出の必要はなくなりましたが、「台帳登録」の提出がされていないと、原則として移植施設認定の更新がされません。台帳登録の提出期限は 2 月 10 日までとなっていますので、必ずご提出くださいますようお願いいたします（例年よりも締め切りが早くなっていますのでご注意ください）。詳細については、別添「2012 年 台帳登録提出のお願い」をご確認ください。

13 連絡事項**◆ 平成 24 年度非血縁者間骨髄および末梢血幹細胞採取施設の認定更新調査について**

（認定施設の先生方へ）

平成 24 年度非血縁者間骨髄および末梢血幹細胞採取施設の認定更新調査を開始しました。返送いただく書類は、次の 3 種類となります。

- ①平成 24 年度非血縁者間《骨髄および末梢血幹細胞》採取施設の認定更新調査票（病院情報）
- ②各委員会《輸血療法委員会・感染症対策委員会・医療安全（事故）対策委員会》の議事録（直近開催のもので開催日・開催場所・出席者の記載があれば内容は必要ありません）
- ③認定証の発行について（お伺い）

該当施設の関係者の皆さまには、お忙しいところお手数をお掛けしますが、提出期限に遅れないようご協力のほどよろしくお願ひいたします。 <提出期限>平成 24 年 1 月 31 日（火）

◆ 「本邦における非血縁者間末梢血幹細胞採取と骨髄採取のドナーへの影響に関する観察研究」について（コーディネーターの方へ）

ブラッシュアップ研修会において説明した標記観察研究について、準備が整いましたのでアンケートの発送を開始します。対象となる方に対しては、あらかじめ電話連絡をしたうえで送付させていただきます。コーディネーターの方々にはご負担をおかけしますがよろしくお願ひいたします。

【研究趣旨】

本邦における非血縁者間末梢血幹細胞移植の導入にあたり、末梢血幹細胞採取と骨髄採取のドナーの方への影響に関して、安全性および身体的、精神的、社会的負担を比較し、今後のコーディネートに役立てるために観察研究を実施します。

◆ 各種データについて

今号では、マンスリー JMDP に毎号掲載している「コーディネート件数（月次データ）」の他に、「コーディネート件数（2011 年実績）」「コーディネート期間（2011 年実績）」「コーディネート期間（2011 年 7 月～12 月実績）」を同封します。

◆ 20 周年記念誌の同封について

調整医師および採取責任医師、20 周年記念全国大会を欠席されたコーディネーターの方へ、20 周年記念誌を同封します。

◆ ブラッシュアップ研修会講義資料の同封について

コーディネーターの方へ、ブラッシュアップ研修会の PBSCT に関する講義資料を同封します。